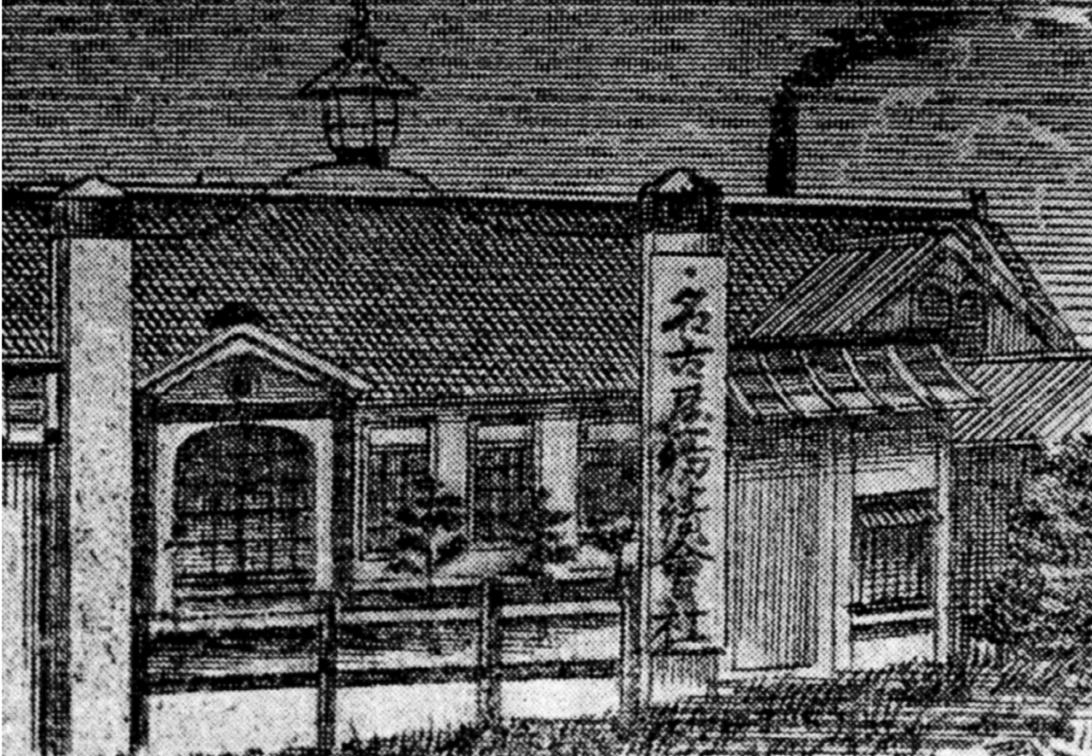


# 名古屋機械紡績業の嚆矢

## — 名古屋紡績 —



名古屋紡績会社 出典：『写真集明治大正昭和名古屋』

名古屋紡績は名古屋地区初の近代紡績会社として、村松彦七、岡谷惣介らによって発起され、伊藤忠左衛門（川伊藤と呼ばれ松坂屋伊藤家と並ぶ富豪、初代社長）、伊藤次郎左衛門、祖父江重兵衛など名古屋の豪商や尾張徳川家当主徳川義礼らが事業に出資した。当初は、葉栗郡宮田村木曾川畔に、水車動力を用いて操業する計画で、国の起業基金（綿糸紡績機械購入費）が貸与され、4000錘英国製紡績機械を輸入した。しかし、木曾川畔に工場を建設すると費用がかさむことが判り、

堀川端の正木町に火力動力での操業に変更した。当初の計画が失敗した際、県当局は、「或ハ慰諭シ或ハ激励ヲ加ヘ厚ク保護ヲ尽シ」、また紡績機械代金年賦上納に関する繰り延べを支援し、県資金による繰替を行った。明治18年（1885）4月に開業。明治38年（1905）10月三重紡績と合併した。

### 村松彦七（不詳～1885） ～名古屋の工業化に大きな足跡～

東京神田区に生まれる。為替業小野組名古屋支店支配人として愛知県の為替方を請け負った。明治7（1874）年に小野組が閉店した後、明治9年名古屋七宝会社（同4年設立）社員となり、同年4月フィラデルフィア万博に七宝焼製品を出品、販路開拓に務めた。明治11年2月、パリ万博にも陶磁器を出品し、優等賞牌を得た。総裁を務めていた松方正義の知遇を得、フランス各地を一緒に巡行した。このとき、輸入防遏のため紡績業の必要を痛感し、紡績器械の輸入について研究し、帰国後、愛知物産組設立に尽力し、また名古屋の岡谷惣助、伊藤忠左衛門の等豪商に働きかけて、明治16年1月、名古屋紡績を設立した。横浜正金銀行の取締役役に就任する



村松彦七

出典：『本邦綿糸紡績史』

など、中央にも幅広い人脈を有し、明治初期の名古屋地区の工業化に大きな足跡を残した。将来を嘱望されたが明治18年1月、41歳で逝去した。